

ありがとうを噛みしめて

徳とく泉すい寺じ報ほう

No. 8 6

発行
令和6年12月
発行元 徳泉寺
仙台市宮城野区
榴岡3-10-3
(022)297-4248
tokusenji.sendai@gmail.com



ホームページ
tokusenji-sendai.com



Instagram
[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



令和六年を振り返る

令和六年、能登半島を震源とする大きな地震から始まった一年でした。異常気象や国際的な紛争など、世界全体に広がる不安や不満が私のところまで届くような一年だったように思います。SNSの広がりや感染症対策の徹底から、直接的な人と人との繋がりを作るのが難しい時代になってきたなあと感じます。しかし、そんななかでも徳泉寺では多くの有り難い出遇いがありました。毎年恒例となりました、住職と前任職による今年の振り返りをお送りします。

Q 今年一年はいかがでしたか。
真爾住職

若者のつどいが始まったので若者たちといろんな活動ができて嬉しかったです。若者に限らずですが、みんなが集まってくれる場所を開くことができるということの礎には、古くからのご門徒さんであったり、大切に思ってくださいる方たちの支えがあって、みなさんのおかげでそういう場を開いていられるのだなあと多く感じた一年でした。

Q 前任職は八十歳を迎えましたが、いかがでしたでしょうか。
秀和前住職

特別印象に残っていることがあるわけではないのですが、身体のおちこちに小さな不調はあったとしても、



同朋会



子育てサロンのサポート
をする中学生 職場体験



IMS やまねこ屋 朗読会



榴岡小学校町探検

今年も一年大変お世話になりました。ご門徒を始め有縁の方々が大切にしているものを共に大切にできる、みなさまに寄り添う徳泉寺でありたいと思います。ありがとうございました。

Q 2025年への展望はありますか？
真爾住職

気候の変化や災害の発生など今まで通りということがないなかで当たり前に過ごせるということの大切さを確かめつつ、みなさんと一緒に仏の教えに耳を澄ませ聞法していきたいと思えます。

秀和前住職

そうですね。我慢しすぎず、素直に生きたいと思えます。来年は次男のお寺で法話をする予定があるので、それを当面の目標として体を労わりながらいけたらと思います。